

# コミュニティ だより

徳島市  
徳島市コミュニティ  
連絡協議会  
〒770-8571  
徳島市幸町2丁目5番地  
TEL(088)621-5510  
FAX(088)621-5511

## 2015年を迎えて

徳島市長 原 秀樹



明けまして  
おめでとうご  
ざいます。

新しい年を  
穏やかに迎  
えのことと謹  
んでお慶び申  
しあげます。

皆さま方に  
は、日頃より、  
コミュニティ活動に多大なる  
ご尽力をいただくとともに、  
市政推進に格別のご理解・ご  
協力を賜り、心から感謝を申  
しあげます。

さて、急速な人口減少や少  
子高齢化の進行などを背景と  
して、地域における人のつな

がりの希薄化  
が指摘されて  
おりますが、

地域コミュ  
ニティによる  
絆づくりや人  
と人のふれ  
あいは、住民

生活を支える原点であり、地  
域活動の源となるものでござ  
います。

こうした中、皆さまの熱意  
ある日々の取り組みは、人と  
人との信頼や絆を深め、誰も  
が安心して暮らし続けること  
ができる地域社会づくりに欠  
かせないものであり、子ども  
たちの健全育成や高齢者の生  
きがいづくり、そして、大規  
模災害時における「共助」に  
も繋がる、誠に心強い活動で  
ございます。

現在、本市では、未来を担  
う子どもの育成をはじめ、迅  
速な防災・減災対策など、市  
民の皆さまの安全・安心の確

保といった施策に積極的に取  
り組む一方で、市民の誰もが  
「このまちに永遠に住み続け  
たい」と実感していただける  
よう、徳島東部地域の中核都  
市として、貴重な資源である  
「水」や「LED」などを活か  
した水都を象徴する魅力ある  
まちづくりが着実に形づくら  
れてまいりました。

今後、目指す将来像であ



### 新年のあいさつ

徳島市コミュニティ連絡協議会

会長 島田 和男



「心おどる水都とくしま」  
の実現に向け、一層の努力を  
重ねてまいります。ごいま  
すので、引き続き、皆さまの  
お力添えを賜りますようお願い  
申し上げます。

終わりに、この一年が皆さ  
まにとりまして実り多い幸せ  
な年となりますよう心からお  
祈り申しあげまして、新年の  
ご挨拶とさせていただきます。



新年あけましておめでとう  
ございます。

会員各位にとりましては、  
希望に輝く年でありますよう  
ご祈念を申しあげます。

安倍政権の発足後、順調に  
推移してきましたが、ここに  
きて消費税増税の影響を受け、

非常に難しい時期にさしか  
かっています。しかも莫大な  
借金がある上に、急激な人口  
減少により社会基盤が維持で  
きなくなる恐れがあります。

国も地方活性化のため「地  
方創生本部」を立ち上げ、対  
策を始めましたが、大変危惧  
するところであります。

さて「徳島市コミュニティ  
連絡協議会」では毎年、先進  
地を視察、研修を実施してい  
ます。しかし、平成二十四年  
度から市担当職員が、財政事  
情等のため、同行しなくなり

ました。そこで市長に、職員  
も共に勉強し、同じ方向性が  
ないと「まちづくり」は難し  
いと申しあげたところ、即断  
即決で再び同行していただい  
けることになりました。

おかげで本年度の研修は、  
職員も参加していただき、東  
日本の災害や復興状況を視察  
研修し、非常に有意義な研修  
となりました。

一、「百聞は一見にしかず」  
ということわざがありますが、  
災害状況を現地で見、被災者  
の生の声を聞くことがいかに  
大切かを知りました。

二、「いざ鎌倉」というよう  
な突発的な災害や事故が発生  
したときには、いかに指導者  
の素早い判断が大切か再認識  
しました。

三、固定観念にとらわれては  
いけないということです。  
今回の研修では、以上の三  
点が心に強く残りました。

私たちコミュニティの会長  
は、日常から災害に備え、防  
災・減災に努めなければなら  
ないのではないのでしょうか。  
最後になりましたが、皆々  
さまがこの一年、幸多き年で  
ありますようお願い致します。  
で、新年の挨拶と致します。

# 肉町まちづくり協議会の活動報告

## 内町まちづくり協議会作成の「防災マップ」が完成 「ひょうたん島オリエンテーリング」も開催

内町まちづくり協議会

会長 豊田 雅信

平成二十六年十月十五日、内町小学校で「内町地区地震・津波避難支援マップ」の完成披露をしました。徳島市と徳島大学環境防災研究センターのご協力により、約半年がかりの労作となりました。表の地図には各種の津波避難ビル の位置や規模を示し、裏面

は、災害避難時には歩行速度が通常の半分程度になるなどと、知っておきたい「こんなこと」や「あんなこと」を詳しく説明してあります。そして同様のマップでは初めて、「我が家の地震・津波避難マップ」を別紙でつけました。ご自身で、自宅から避難場所へのルートを地図に書いてもらうためのものです。これを作成するために、それぞれの家庭で、防災について話し合いがされることも目的のひとつです。ぜひ、活用していただきたいと思います。このマップは十一月中旬に、内町地区の全戸に配布しました。また、内町まちづくり協議会では、三年に一度、内町小学校の児童を対象に「ひょう



松江邸跡 (武士の情け)

たまた、内町まちづくり協議会では、三年に一度、内町小学校の児童を対象に「ひょう



鳥居龍蔵博士記念碑

がオリエンテーリングポイント九箇所を巡ります。今年には新たに、鳥居龍蔵博士をポイントの一つに加え、また、オリエンテーリングマップの写真も撮り直していただきました。マップはラミネートで補強し、下敷きにも使えるようにして参加者に配っています。小学校の先生やPTAの協力を得、総勢三百名近くの参加となり、毎回好評のうちに挙行されています。

ん島オリエンテーリング」を開催しています。平成二十六年十月二十四日は第六回目となります。内町地区の歴史的に重要な場所や高名な人物の中から、十三箇所のポイントをピックアップし、まちづくり協議会役員らが、九〜二十三人のグループごとにそのポイントの説明をします。児童らは低学年と高学年の合計二十二班に分かれ、それぞれの班



香風台 (内町小)

本年もよろしく  
お願いいたします

- 沖洲コミュニティ協議会 会長 三栖谷高照
- 津田コミュニティ協議会 会長 島田 和男
- 加茂名まちづくり協議会 会長 原田 治郎
- 加茂コミュニティ協議会 会長 大栗 敏治
- 八万町各種団体連絡協議会 会長 松尾 孜
- 八万中央コミュニティ推進協議会 会長 露口 玲子
- 八万コミュニティ推進協議会 会長 福田 紀雄
- 勝占地区コミュニティ連合会 会長 山口 敏
- 勝占中部コミュニティ協議会 会長 稲生 正徳
- 勝占東部コミュニティ協議会 会長 高島 伸一
- 多家良地区連合協議会 会長 下條 敏也
- 多家良中央コミュニティ協議会 会長 芝原 孝昌
- 丈六コミュニティ協議会 会長 梅本 辰雄
- 不動コミュニティ協議会 会長 渡邊 浩一
- 入田町まちづくり協議会 会長 森 政雄
- 上八万コミュニティ連合協議会 会長 河上 治義

私たちはいつも「美しく」、地域の人が「使いやすい」「安全に」をモットーにして、八万中央コミセンを守ってきました。

平成十年に、住民の願いであるコミセンが新築されました。新しいコミセンを見て、「この美しさをいつまでも」を合言葉にして、今まで大切



# 「美しく」「使いやすい」 コミセン

八万中央コミュニティ推進協議会  
会長 露口 玲子

にコミセンを守ってきました。長い年月の間、最初の美しさを保つのは困難であります。が、「初心忘るべからず」の気持ちを守らないようにしようとも話し合ってきました。

やはり、長年使用していると傷みが出たり、不都合が生じたり、安全面にも不備なところが出てきます。その都度、八万中央コミュニティ推進協議会の役員が、解決の方策を検討し、改善してきました。

推進協議会の役員は、設備や備品に関する事、特に利用者の安全を図る施設の改善や行事についても、積極的に協議し、実行しました。清掃や樹木の剪定は恒例となっています。

また、コミセンは八万地区



プランターの花

の各種団体のボランティア活動の拠点として、重要な役割を果たしています。団体の会員は個々の活動の他に、イベントなどには団体枠を越えて協力しています。

その他、コミセンの門周辺の犬の糞を毎日清掃する人、鉢やプランターの花は年中絶えることなく、玄関には雑草生花がセンス良く、ホールの花瓶には枝物や花の提供で豊かな雰囲気を出しています。

お正月には大きな門松、三月には七段の雛飾り、五月には五月人形飾り、八月には阿波踊りの旗敷出演、九月の観月会、十二月はクリスマスツリー等々、地域の方のボランティア精神の表れには枚挙の



9月の観月会

いとまがありません。来館の高齢者は幼い日を懐かしみ、子どもたちには忘れかかっている年中行事の伝達の役目をしていきます。

職員は地域の要望をまとめたり、協議会に伝えたりしながらコミュニケーション能力を養い、仕事に自信と実行力を身に付けました。

このようにして八万中央コミセンは推進協議会を中心に、地域の人々の憩いの場所、ボランティアや研修の場としてあらゆる活動の拠点として発展してきました。

これからも美しく、使いやすく、安全にを目標にして、初心忘るべからずの気持ちを守り、守り続ける必要があります。



3月の雛飾り



- 上八万まちづくり協議会 会長 阿部 増江
  - 一宮下町づくり推進協議会 会長 祖川 信明
  - 川内まちづくり協議会 会長 増金 賢治
  - 川内南コミュニティ協議会 会長 河井 宏紀
  - 応神町コミュニティ協議会 会長 玉置 勇次
  - 国府コミュニティ協議会 会長 阿部 克己
  - 新町コミュニティ協議会 会長 沖野 高穂
  - 西富田コミュニティ協議会 会長 小出 雅彦
  - 東富田コミュニティ協議会 会長 松ノ内 清
  - 昭和コミュニティ協議会 会長 松岡 勤
  - 渭東コミュニティ協議会 会長 中嶋 修三
  - 住吉城東地区町づくり協議会 会長 浜田 耕市
  - 渭北街づくり協議会 会長 岩丸 定
  - 佐古コミュニティ協議会 会長 三木 隆清
  - 南井上コミュニティ協議会 会長 松島 孝昌
  - 北井上地区コミュニティ協議会 会長 前川 俊治
  - 内町まちづくり協議会 会長 豊田 雅信
- (順不同)

# 地域貢献高齢者 顕彰者



地域貢献高齢者顕彰記念 平成26年10月1日

平成二十六年十月一日に開催された置市記念式典において、徳島市地域貢献高齢者顕彰制度に基づき、日頃から地域コミュニティ活動に貢献されている方々に対し、原秀樹市長から感謝状の贈呈が行われました。

市長からの祝辞の後、受彰者を代表して渭北街づくり協議会の西木秀治氏より謝辞が述べられました。

受彰された方については左記の通りです。

内町まちづくり協議会  
上原 卓郎  
新町コミュニティ協議会  
武田久仁雄

西富田コミュニティ協議会  
船田 武雄  
昭和コミュニティ協議会  
庄野 榮子

- 住吉・城東地区町づくり協議会 芝 正裕
- 渭北街づくり協議会 西木 秀治
- 佐古コミュニティ協議会 三浦 圭介
- 沖洲コミュニティ協議会 仁木禮太郎
- 津田コミュニティ協議会 泓 恒
- 加茂コミュニティ協議会 山口 敏治
- 八万町各種団体連絡協議会 宮崎 康伸
- 八万中央コミュニティ推進協議会 岡田 文
- 八万コミュニティ推進協議会 三橋 壽純
- 勝占中部コミュニティ協議会 田中 八重
- 勝占東部コミュニティ協議会 田岡 修蔵
- 多家良中央コミュニティ協議会 片山 寛昭
- 丈六コミュニティ協議会 寺西 安子
- 不動コミュニティ協議会 佐野 紀代



- 入田町まちづくり協議会 坂東 喜夫
- 上八万コミュニティ連合協議会 鎌田 清弥
- 上八万まちづくり協議会 勝野 昭
- 一宮下町町づくり推進協議会 池内フヂコ
- 川内まちづくり協議会 島田 秀昭
- 川内南コミュニティ協議会 吉川 泰司
- 応神町コミュニティ協議会 柏木 文俊
- 国府コミュニティ協議会 今井 正一
- 南井上コミュニティ協議会 岩崎 肇
- 北井上地区コミュニティ協議会 美間 昇

## 市長祝辞

このたびは、地域貢献高齢者の顕彰を受けられました皆さま、誠におめでとうござい  
ます。心からお祝いを申しあ  
げます。

被顕彰者の皆さま方におか  
れましては、率先して地域の

社会貢献活動をされており、その真摯な行動に対し、深く敬意を表しますとともに、日頃からコミュニティ活動にご理解とご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本市では、平成二十五年度から「徳島市地域貢献高齢者顕彰制度」を策定し、地域の絆を育て、社会貢献活動にご活躍されております高齢者の方々に対しまして、感謝状を贈呈することとしております。（平成二十六年度におきましては、昨年十月一日の置市記念式典において二十八人の方々に感謝状を贈呈いたしました。）

皆さま方のこうした活動は、地域住民の方々の目標となり、多くの方々の地域社会への参加につながり、ひいては活気のあるコミュニティが形成されていくものと確信しております。

今後におきましても、地域のリーダーとして、更なるご活躍をお願い申しあげ、祝辞のご挨拶とさせていただきます。

平成二十六年十月一日  
徳島市長 原 秀樹

# 代表者謝辞

渭北街づくり協議会

西木 秀治

ご紹介をいただきました。渭北街づくり協議会の西木でございます。

本日は、置市一二五周年記念式典において地域貢献高齢者表彰に際し、受彰者を代表して謝辞を述べさせていただきます。受彰者を代表して謝辞を述べさせていただきます。

受彰者の皆さまには、日頃から地域コミュニティ活動などにおいて、その実績、その他などで範となられる方々であろうかと思っておりますが、本日は私が年長者の故をもちまして、代表者として挨拶することを冒頭にご理解を賜りたいと思っております。

そもそも私たちが行ってきたことは、自分たちの地域で共に生きるために廃品回収活動、防犯灯設置活動、親睦活動などは他の地域でも行われております。

あえて言いますれば「一人は町内の方々のために、町内会は一人のために」というこ

とで地域の人々の連帯を強め、継続してきたことを「五十年のあゆみ」として発刊し、地域活動のあり方を皆の力でまとめ将来までも町内の皆さんが、より良い環境で安心安全な生活ができていことを喜びとしていることだと思っております。

現在、社会的に不安が多い

中で、どうか引き続き日々の生活がより明るく心豊かなものでありますことを期待するとともに、私たちが住んでいる徳島市のますますのご発展を心からご祈念申し上げて、代表としての挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

## 丈六コミュニティ

## 活動の紹介

## 心安らぐ空間づくり



丈六コミュニティセンターでは、地域のコミュニティの場として、ハード面のセンターの施設の改善や充実に努めるとともに、ソフト面の取り組みの一つとして、センターがより良い活動の場であるととともに、センターを利用

丈六コミュニティ協議会  
会長 梅本 辰雄

する地域の人たちにとって、感性を育み、心安らぐ地域の施設となるよう取り組んでいます。

今回、その取り組みの一つである玄関前や、ホール・中廊下などの空間を有効に利用した常設展の取り組みについて紹介します。

### 一、花いっぱい運動

玄関前の階段を使って年二回、徳島市植物園から花の苗を頂き、玄関前で育て、センターを訪れる人々たちを季節の花で迎え、楽しんでもらっています。(協力：徳島市公園緑地課の「花と緑の町づくり花苗事業」や一の会)



二、ホールのビデオコーナー  
石川博興さんの県内近郊の様々な動画の作品をテレビでいつでも自由に楽しめるようにしています。



### 三、中廊下の展示コーナー

特技・クラブ・研究発表など各種多岐にわたる芸術性溢れる作品を募集しています。

○丈六公民館・技芸教室の作品展示

○生花（近隣の季節の草花）

○ペーパークラフト（題材：日本の四季）

### 四、主催の行事との連携

本年度から敬老会の主催が丈六コミュニティ協議会となり、地域の人や各種団体の協力を得て開催されました。

本年度は従来行ってきた写真展を拡大し、個人やサークルで制作された様々な芸術性溢れる作品を会場に飾っていただき、敬老会に活気と彩りを加え盛り上げていただきました。



丈六敬老会での展示作品



# 加茂地区自主防災 連合会ってなあ～に？



加茂地区自主防災連合会

会長 小手川 詔三

## 一 加茂地区自主防災連 合会発足

加茂地区における自主的な防災活動を行うことにより、地震、風水害、火災等の災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的に、平成九年十月九日に十七の自主防災会で発足し、年々組織拡大を図り、現在四十七の自主防災会が組織されています。

## 二 加茂自主防災連合会 組織とは

会員は、加茂地区の単



- 位自主防災会の会員をもって構成し、次の事業を行います。
- (一) 火災に関する知識の普及
  - (二) 地震に対する災害予防
  - (三) 地震等の発生時における情報収集と伝達
  - (四) 火災消火、救出救護、避難誘導等の応急対策
  - (五) 防災訓練の実施
  - (六) 防災資機材等の整備

## 三 加茂自主防災連合組織の 取組について

一般に災害被害の軽減は「自助」「共助」「公助」の効



率的な組合せで実現されるといわれています。自主防災連合組織は、基本的には自助、共助の場面で活動することになります。まず、自分の命が助かってから初めて他の人と協力して被災して動けなくなった人たちを助けることができることとなります。平成二十五年から徳島市では「自主防災組織充実・活性化事業補助金」が交付されるようになり、平成二十五年、加茂自主防災連合会は、補助

金を活用して「自主防災倉庫」を二カ所、資機材の購入、大阪にある「津波・高潮ステーション」の研修を実施しました。今年度も資機材の購入、避難マップの作成、各町内会単位で行う防災訓練を実施しており、今後三十年以内に七十%の確率で発生するであろうといわれている、南海トラフによる巨大地震へ備えて意識の高揚に努めていきたいと考えています。

(加茂コミュニティ協議会)

# 代表 吉川 英治

代表 吉川 英治

平成十八年、交通防犯の総会が一宮コミセンの会議室で開かれました。会議終了後の懇親会の席上、婦人会長さんに短歌の会をやりたいたいけれど、興味を持つ人はいないだろうかと相談しました。その場で三人の賛同者を紹介していただき、めでたく一宮コミセン歌の会が発足することになりました。地元のケーブルテレビの取材、放映もありました。会場代が五百円かかります。

ので、会員は五人欲しいところ、最初のうちは七人でコミセン祭りへの展示や吟行を楽しみにしてきました。平成二十五年には八十回の記念に「驟雨」を発行しました。以降は女子二人が諸事多忙で欠席し、老々五人となりました。歌会は各自最低二首提出し、板書します。板書するときは誰の作か分からないように工夫して合評しあいます。

しかし近頃はすぐ作者がばれてしまいます。歌会の楽しみは作る楽しみだけでなく、顔を合わせて話し合う中にお互いが教師・先達となり、知識や経験・情報の交流・交換が行われることです。第二金曜日、昼前の一時間はあつという間に終わってしまいます。



老々の日々、生き甲斐を提  
供してくれる場「コミセン」。  
おかげで開催百回記念誌「葛  
籠峠」を刊行できました。  
(一宮下町づくり推進協議会)



# 地域の方との交流から

## 北井上地区コミュニティ協議会

春、北井上地区では毎年とくしまマラソンのボランティアに参加しております。昨年

も四月二十日に天候にも恵ま

れ参加することができました。

ボランティアには、コミュニ

ティ協議会会長の呼びかけの

もと、体協、公民館運営委員、



とくしまマラソン

小学校・中学校のPTA・生徒たち合わせて五十名余りの方々に協力していただくことができました。

北井上地区担当の第九給水所は、ランナーにとって一番

苦しい区間だそうです。そのようなときに地域の方々の「あともう少し」「がんばれ、がんばれ！」の声援がとてもうれしいと言っていました。

また、今年も三月二十二日に開催されますが、おもてなしの心を持って精一杯お手伝いをし、応援したいと思えます。

また、秋には公民館と協力し、北井上文化祭を十一月一日・二日と北井上コミュニティセンターで開催いたしました。少し天候の心配もありましたが、地域の方々の作品(生花・盆栽・写真・洋画・日本画・書道・デコ頭・折り紙・編み物・藍染・手芸等)、また、保育所 幼稚園 小学校 中学校 からも

生徒たちの作品を出展していただきました。どの作品も力作揃いで来館者の目を楽ませせていました。

野外テントでは、地元の新鮮な野菜、色とりどりのお花の即売会も大盛況のうちに行われました。この二日間延べ百七十



北井上文化祭

人もの人に足を運んでいただき、うれしく思います。

このような事業をすることによって、高齢者から子どもたちまで世代を超えて交流し、地域の絆力を高めて災害対策等にも力を発揮していきたいと思えます。



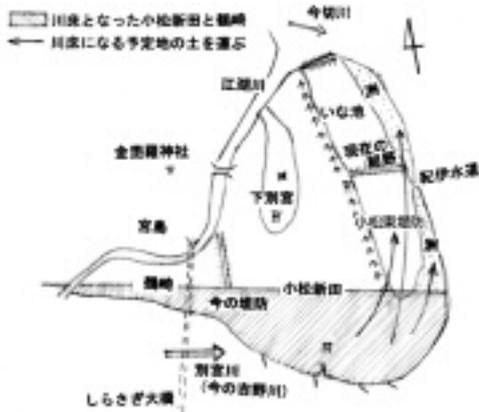
シリーズ  
名所・旧跡

# 川内町小松開発について

川内南コミュニティ協議会  
会長 河井 宏紀

眉山を背景にキラキラ輝く川面、四季折々の風情を見せる徳島の母である大河吉野川。しかし、ときには日本の三大暴れ川として流木を抱え、濁流となつて流れる荒々しい姿も現わす。

この吉野川の下流域にある川内町小松の開発について、浜幸雄先生の労作「小松新田開発史」によると次のようであった。



小松新田説明図

江戸時代中期(一七〇〇)一八〇〇年、幕府の財政が窮乏し、資本を持った大商人の新田開発が多くなつた。阿波においても同時代、吉野川下流域、小松島湾岸、那賀川下流域で多く、小松新田開発も同時代で海岸に近く、河川の下流開発は毎年のように襲う洪水、高潮など、非常に困難を極めた。

小松新田は徳島市の大商人荒井武兵衛から六代(四代目に小松と改姓)、約百三十年の長きに渡り、自然災害と戦い、六千二百五十八アール(六十三、二町)以上の開発を実施した。荒井家が阿波藩から開発認可を受ける条件は、床金として百二十両、自分の金で堤防を築き、道や堀を作り、三年間の年貢猶予で開発せよとのことであつ

た。苦勞してできた田畑も一度洪水が来れば堤防の決壊冠水と、厳しい現実で離農する家族も出ている。被災者が食べる物にも困つたとき、荒井家は蔵米を出し、お助け普請として堤防の修理工事にもあたらせた。またその工事には、そのときの最先端技術であつたであるう堤防に当たる水の流れを変える制水波止や、松材などで井げたに組み、竹や芝を縫い込み、杭を打つて止め、その上に石を積む「沈床工法」。さらにこの他に防風林を苦勞し植林している。(図・写真参照)



現小松東堤防



堤防断面図

このように日本には、台風や地震など天災と戦つてきた長い歴史があり、少しずつ改良や技術革新を進め努力し、人々が協力する国民性を形成し、世界を驚かせる道具や職人の技を生み出したと思われる。

この小松新田の堤防は、南北に一キロメートル以上現存しており、史跡として部分的でも残すべきだと思ふ。

## 編集後記

あけましておめでとうございます。新年のご活躍発展を祈念いたします。

温故知新「コミュニティだより」は、地域活動の証とし、他の範とする等の使命を担つていきたいと思ひます。

ノーベル賞を受賞したLEDの産みの親、中村修二博士は徳島大学工学部の誇りであり、徳島市民の希望の光となりました。

原徳島市長の年頭の挨拶は、「人と人との信頼や絆を深め、誰もが安心して暮らしていける地域社会づくり」を提起されました。(LEDも重視)

内町・加茂地区の優れた防災活動もその具体的実践です。八万の美しく、使いやすいコミセン、丈六の心やすらぐコミセン、地域の交流するコミセンづくり等は地域に役立つコミセン活動の典型でしょう。新しい年も血の通う地域づくりに期待したいものです。

川内地区の「小松新田の開発史」は、全市民に貴重な紹介をしてくれました。先人の慧知と努力に目を見張られるでしょう。その防波堤は、貴重な市民の文化財です。

(佐藤義忠 記)